

騒音・振動の防止

事例名	11. 低騒音・排水性舗装
工事名	一般国道206号沿道環境改善事業
施行場所	長崎市 赤迫～滑石
事業年度	平成15年度～平成16年度
実施機関	長崎土木事務所
適応可能な事業	道路

<具体的な環境配慮内容>

交通騒音低減による沿道環境の改善と降雨時における視認性とすべり抵抗性の改善による交通事故の低減

<環境配慮の目的と視点>

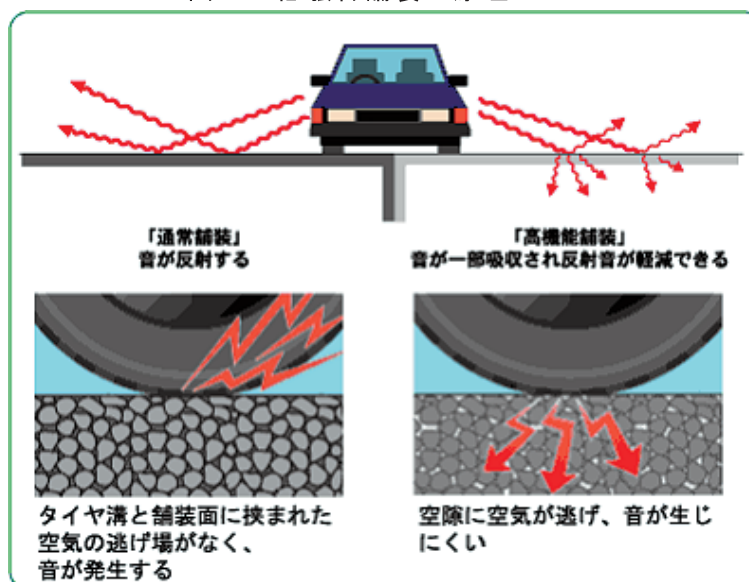
市街地における交通騒音の低減と雨天時の走行性の向上

<環境配慮技術の概要>

排水性舗装は、空隙率の大きい多孔質なアスファルト混合物の層の下に不透水性の層を設けたものである。

その機能としては、表面から内部まで多くの空隙が存在することによる道路交通走行騒音の低減効果、道路表面の雨水を速やかに排水することによる車両の走行安全性の向上効果がある。

図1 低騒音舗装の原理



排水性舗装の特徴

- 1) 騒音低減効果
- 2) ハイドロプレーニングの防止
- 3) 視認性向上（ライトの幻惑抑制）

< 環境配慮による効果 >

表.1: 対策前後の騒音比較

区分	対策前	対策後	前回との差
	平成14年10月	平成16年2月	
昼間	78dB	73dB	-5
夜間	76dB	71dB	-5

備考) 騒音調査の実施は、対策施工後3ヶ月目の時期である。

本施工箇所（写真1参照）の国道206号は、幹線道路であり、重交通量で沿道に家屋、ビル等が多い区域である。低騒音舗装を施工する前と後で比較すると5dB下がっており、環境配慮に努めることができた。



写真1

< 課題等 >

排水性舗装は、空隙率が大きい構造になっているので、ゴミ等による目詰まりが生じてしまう。また、タイヤチェーンによる骨材飛散も生じてしまう。これらの要因から機能低下が進んでしまう。

従って、機能回復を定期的に行う必要があるが、維持管理にコストがかかりすぎる。

排水性舗装自体が通常舗装に比べてコストが高いため、定期的に機能回復を行う必要がないような高耐久性を要する技術の研究が望まれる。

< 同技術を採用した他の事例 >

工事名称	実施機関
一般国道251号沿道環境改善事業	島原振興局